

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972600047		
法人名	社会福祉法人 西土佐福祉会		
事業所名	グループホーム にしとさ		
所在地	高知県四万十市西土佐用井1110-39		
自己評価作成日	平成27年9月26日	評価結果 市町村受理日	平成27年12月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中で、利用者の知恵や残存能力を活かしながら、季節の花や野菜を育て、散歩などしながら生育を楽しみ、収穫した野菜を使って食事作りをしています。法人、事業所では職員の介護力向上を目指し、自己研鑽や施設内外での研修会への参加、資格取得等を通じてスキルアップを図っています。また、利用者のおむつ外しや認知症改善に向けての学習療法にも取り組んでいます。年間を通じて、季節ごとの行事を計画し、地域のイベント等への参加や訪問ボランティアとの交流など、利用者が楽しく、穏やかに生きがいのある日々を送っていただくよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;jiryosyoCd=3972600047-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;jiryosyoCd=3972600047-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年11月6日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は豊かな自然に囲まれた高台に位置し、周辺には地域の福祉関連施設(介護・保健・医療・教育・文化施設)が集合している。「利用者の尊厳を守り、優しい介護に徹する」という理念の実践に努め、家庭的な環境の中で、利用者の希望に沿ったケアに取り組んでいる。

ケアでは、下肢筋力を高めるための歩行や水分摂取、排泄支援に力を入れ、また年1回は利用者の行きたい場所に利用者と職員が一緒に出かけ、本人の若い頃の思い出等に触れている。事業所には定期的にボランティアが訪問し、小・中・高校生との交流も盛んで、近隣住民から野菜の差し入れがあるなど、地域と密に交流している。

法人内研修や外部研修などにも力を入れ、職員の資質向上に努めており、利用者の重度化に備え、本人、家族の希望に沿って看取りを行う方針で取り組んでいる。優しい声かけで利用者一人ひとりの思いを大切に、日々のケアに取り組んでいる。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所共通の理念を休憩室、タイムレコーダーの傍、ホールなど目につく場所に貼り、職員会等でも取り上げて振り返り、日々のケアで理念を意識しながら実践している。	「利用者の尊厳を守り、やさしい介護に徹する」という法人共通の理念のもと、事業計画は、重度化に対する取り組みを中心に、利用者の意向に沿う方針で作成している。理念は、毎月の職員会などで日々のケアを振り返りながら確認し合い、実践につなげている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の自治会に加入し、地域のイベント等に参加している。定期的にボランティアの訪問もあり、おやつ作り等で交流している。地域住民からは野菜等の差し入れがあり、その際、世間話などしている。また、近くの小学校・中学校・高校との交流もある。	自治会に加入し、小・中学校の運動会の見学や「ふれあいセンター」で児童の舞踊を見たり、地域イベントなどに参加している。中・高校生の職場体験学習の受け入れやボランティア訪問が定期的であり、利用者と一緒に行事をしたり、紙芝居やゲームなどを楽しみながら交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の高校生や一般住民を対象とした介護職員初任者研修で、認知症についての講義をしている。また、運営推進会議で認知症についての話なども行っている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活状況や活動内容、行事、情報の公表、外部評価の結果等について報告し参加者からの質問や意見をサービスの向上に生かすようにしている。また、参加しなかった家族には会議録を送付して運営状況を周知している。	会議では議題を設定して、参加メンバーとの質疑応答が活発に行われ、双方向的な会議になっている。事業所からは生活状況や行事報告、年度の事業計画、外部評価結果などを詳しく説明し、出された意見を運営に活かしている。議事録は全家族に送付している。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や他事業所・地域包括支援センター合同での担当者会議で、事業所でのサービスについて入居者の状態や課題を報告し、助言を得るようにしている。	運営推進会議における状況報告等で事業所の実情を伝え、介護認定調査などの必要時には連絡、相談している。月2回の福祉・医療・介護の担当者合同会議では、事業所の事例報告に対し、地域包括支援センター職員から適切なアドバイスを得ている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や職員会等で、拘束をしないケアについて職員に周知徹底している。日中は玄関の施錠はせず、帰宅願望などで落ち着かない時は、一緒に歩くなどして見守りしたり、ベッドからの転倒による怪我を防止するため、離床センサーマットを使用するなどして自由に動けるようにしている。	法人内研修や外部研修を通じて、身体拘束をしないケアの大切さを全職員が理解して取り組んでいる。外出傾向のある利用者を見守りながら、外出があれば本人が納得するまで一緒に歩いている。また、職員の強い口調による心理的な抑制がないよう管理者は常に注意している。センサーマット使用時には家族の了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や職員会等で職員に周知するとともに、事業所に限らず、虐待を発見した時は速やかに通報の義務があることも伝えている。また、法人では職員のストレスが溜まらないようにメンタルヘルスの取り組みも行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業については事業所で制度の活用事例もあり、成年後見制度と共に勉強会等で理解を深めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約内容等について詳細に説明し、疑問等には分かりやすく答え、理解・納得を得たうえで契約を結んでいる。また、改定等の際にはその都度、文書を送付するとともに口頭でも説明し、家族が理解・納得した上で同意書を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の関わりの中で、要望や意見を聞いている。また、第三者委員も定期的に訪問がある。家族には、面会時や電話連絡時、毎月の手紙の中で要望や意見を求めると共に、苦情の受付についても折に触れて説明している。家族会作業日には家族だけで話し合いの場も設けている。	年2回の法人合同の家族会作業日に意見交換会が行われ、質疑内容を全家族に送付している。また、毎月発行の事業所だよりで利用者の近況報告を行い、家族の面会や電話時に意見や意向を聞いて運営に反映している。	言い出しにくい家族の思いを汲み取るためにも、事業所単独の行事で家族が集まるときに、気軽に意見が言えるよう家族同士で話し合う場を設け、意見を運営に反映させ、家族会の議事録として全家族に周知する取り組みを期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や普段の業務の中で、職員の意見や提案を求めている。出された意見は全員で話し合い、可能な限り改善している。職員会には施設長も参加して、職員の意見や要望を聞いたり、職員との面談も実施している。	管理者は職員会や勉強会で職員の意見や要望を聞き取り、レクリエーションや季節の飾りつけの提案、転倒防止のための手すりの増設等、意見を運営に反映している。職員のストレス軽減のために、長期連休の取得もできる体制になり、勤務調整を図りながら休暇が取れている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己能力が発揮できるよう目標設定やその支援を行っている。また、個人面談を行い、職場環境の問題点など早めに気づき、解決できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会への参加を積極的に行い、資格取得を支援するための勉強会を行っている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設の行事への案内を行い、近隣の同業者の職員と利用者との交流を行っている。また、当法人が開催する施設内研修の参加や市内のグループホーム連絡会にも参加して共に学習している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時や入居時には、ホーム内を見学してもらい、ホームでの一日の流れや過ごし方などを説明し、不安や要望がないか尋ねると共に、相談や要望などがある時はいつでも気軽に話していただくように伝えている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や入居時には、ホームでの一日の流れや過ごし方などを説明し、不安や要望がないか尋ねるとともに入居後も要望や、不安があるときはいつでも気軽に相談していただくようお願いしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前や入居時に本人や家族とゆっくり話し合いを持つと共に、担当のケアマネジャー等からも情報を収集し、必要な支援を見極めて、状況に応じて上司、ケアマネジャー、地域包括支援センターの職員等に相談しながら対応している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、食事作り、洗濯、花や野菜の育て方など利用者の経験や知恵、残存機能を発揮しながら生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や体調等について面会時や随時の電話連絡、毎月のお便り等で報告や相談を行い、必要に応じて家族の協力を得ている。また、家族と外出や外泊もしており、その際は家族と職員間で情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地の行事への参加、墓参り、初詣、行きつけの理美容院の利用など、馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援している。また、事業所全体で行われる行事には、家族や地域の方も来られ一緒に会食などを楽しまれている。家族、親せき、友人などの面会もある。	利用者一人ひとりの望みを叶えるために、利用者の誕生日には本人の希望する場所に出かけている。以前の職場、出身地の祭り、思い出のある喫茶店などに行き、利用者は当時を思い出して喜んでいる。また、馴染みの美容院や、墓参り、初詣にも出かけ、知人等との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が隣り合うよう席を配慮したり、利用者が協力しあってできる簡単な手作業などの場面づくりをしている。また、利用者が孤立したり、トラブルがないように見守りのできる職員を配置している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る際は、必要に応じて、個人情報に配慮しつつ関係者にこれまでのケアの工夫や本人・家族の状況等を伝え、その後も必要に応じて、家族や関係機関への情報を提供している。また、他の施設に移った方の面会に、入居者と一緒に行くなどして関係の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で本人の思いや希望等を聞き、できる限り希望や意向がかなえられるように取り組んでいる。特に誕生日の月には、本人の希望に添った支援をしている。意思表示ができない方については、家族や関係者から情報を得て支援している。	入居時の利用者の生活歴等の基本情報や、日々の関わりの中で、行動や表情などから思いや意向の把握に努めている。職員は把握した日々の情報を口頭で伝達し合っているが、記録による共有は行われていない。	利用者の何気ない一言や新たに把握した趣味や好み、特技、生活歴などをフェイスシートに追記し、一目でわかる記録にして内容の充実を図り、全職員が共有して利用者の意向に、より一層沿うことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や暮らし方などプライバシーに配慮しながら情報を収集し、可能な限り入居前の生活を継続できるように配慮している。また、入居前の担当ケアマネジャーから、これまでのサービス利用の経過等、情報を収集している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、利用者のできる力や残存能力など、職員の気づきを共有するとともに、随時行うカンファレンスなどを通じて現在の心身の状態や生活状況など、総合的な把握に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見、毎月行うカンファレンス、随時に職員の意見やアイデアを聞き、それぞれの意見を反映させながら計画を作成している。検討会を実施した上で、家族に説明、同意を得ている。毎日の実施状況はチェックし、毎月モニタリングを行い、状態の変化時や介護保険更新時には随時計画の見直しを行っている。	介護計画は利用者に関する日々の気づきや変化を把握し、本人や家族の意向等を確認して、それらの情報をもとに職員間で話し合い、作成している。毎月モニタリングを行い、計画は長期6ヶ月で見直すほか、状況に変化が生じた場合は、その都度見直すなど柔軟な対応に努めている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の生活状況や状態の変化、受診状況などを記録し、重要なことは業務日誌や申し送りノートに記載して、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近くの診療所や歯科、専門医への通院、金融機関への付き添いなどその時のニーズに応じて、入居者や家族の希望に沿いながら柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の周辺には福祉・医療・教育・文化・商業施設などがあり、これらの資源を活用できるように本人や家族の希望を聞きながら支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で近くの診療所が主治医となっており、定期受診及び体調不良、怪我などの際は随時通院し主治医から指示をもらっている。家族と受診した時は家族から情報を得ている。職員と定期受診した時は面会時やお手紙で、発熱や怪我などの際はその時に家族に報告している。主治医の紹介で専門医に行く時は、管理者が家族と一緒に同行している。	入居時に家族の同意を得て、全利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。利用者の定期受診は管理者か職員で対応しているが、家族が同行する場合もある。専門医への受診は管理者が家族と同行している。受診結果は記録し、家族及び事業所で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化を見逃さないように観察力をつけ、早期発見に努めている。必要に応じて法人の看護師に相談しながら、適切な受診ができるように支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は本人の身体状況や支援の方法などの情報を提供している。また、担当医や地域包括支援センターの職員、介護職員など合同で開催する担当者会議で情報交換している。入院中は、できる限り面会したり、電話で情報を得るなどして早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との協力体制を築いている	契約時に事業所でできること、できないことを本人、および家族に説明している。その上で希望があればターミナルケアも可能であることを伝えている。状態の変化に応じて、随時家族・本人の意向を確認し、主治医、家族と相談しながら職員全員で協力し合い、重度化した場合や終末期の支援を行っている。	入居時に、重度化や終末期対応について、事業所で出来る事と出来ない事を本人と家族に説明し、そのうえで希望があれば看取り介護を行うことにしている。昨年度は家族の意向に沿って1名の看取りを行っているが、看取りに関する指針、同意書は作成していない。	終末期の職員体制や職員間の意思統一を図り、事業所で出来る介護を明確にするためにも「看取りに関する指針」を作成し、指針に基づく説明を家族に行い、「同意書」をもらう取り組みを期待したい。
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に適切な対応ができるように、消防署の協力を得て救命講習を受講したり、対応マニュアルの周知や、折に触れて対応の仕方を職員間で話し合っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災・地震・土石流などの災害時避難・通報訓練を行い、地区の防災協力員や法人の施設職員の応援を得ている。また、年に1回は法人全体で職員を対象として机上訓練や、災害時の訓練を実施している。災害時に備えて飲料水や食料品の備蓄をしている。	年2回、敷地内の特別養護老人ホームと合同で、消防職員や地区防災協力員などの協力を得て、地震や土石流を想定した避難訓練を実施している。また、事業所独自の夜間想定火災訓練も行っている。その他、法人合同の炊き出し訓練も行い、非常用食糧は3日以上を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄はさりげなく声掛けし、プライバシーに配慮しながらトイレで介助している。入浴はマンツーマンで入浴している。尊厳の保持、プライバシーの保護、守秘義務について勉強会を行い、事業所以外で利用者について聞かれても話さないように徹底している。	内部研修や職員会を通して、プライバシーの保護については十分理解しており、個人的な事項は外部で話さないことにしている。利用者の尊厳を保つよう、大きな声では話さず、トイレ誘導時も耳元でさりげなく声をかけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の利用者との関わりの中で、本人の希望や要望などを本音で話せる雰囲気づくりをしたり、選択技のある声掛けをするなどして自己決定できるように支援している。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴の時間などだいたいの日課はあるが、利用者の希望や状況に応じて、起床、就寝、食事時間、日中の過ごし方など本人の生活スタイルに合わせて可能な限り柔軟に対応している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの理美容院を利用したり、その日に着る洋服を自分で選んでもらったりしている。選べない方には家族から好みを聞いてその人に合った洋服を着ていただくように配慮している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の栄養士のメニューを参考に職員が交代で作っているが、差し入れられた食材や、ホームで育てた新鮮な野菜を使って、利用者メニューを考えることもある。食事作りや配膳・下膳など、できることは利用者と一緒にしている。毎日のおやつ時や誕生日会など行事の時は職員も一緒に会話しながら会食している。	法人の栄養士の献立を参考に、差し入れの物や畑で収穫した野菜などを使い、職員が工夫して調理している。利用者はテーブル拭き、下膳や片付け、野菜の皮むき等出来ることを手伝い、誕生日会や行事の時は利用者の希望の献立を作って変化を持たせている。職員は利用者が楽しく食事できるよう介助している。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態を提供し、水分や食事摂取量を随時チェックしている。摂取量が少ない方には、随時好みのものを提供し補食している。体重も毎月測定し、必要に応じて主治医や法人の管理栄養士に相談している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に応じて、介助・声掛け・見守りにて食後の歯磨きやうがいを行っている。口腔内に異常がある場合は法人に訪問している歯科衛生士に相談したり、歯科受診をしている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調不良や外出以外は紙パンツは使用せず、布パンツと尿取りパットで対応しおむつ外しに取り組んでいる。行動や表情の観察、排泄チェック表から個人ごとの排泄時間の把握に努め、さりげない声掛けやトイレ誘導を行っている。水分も十分摂取できるように取り組んでいる。日中は全員トイレで排泄している。	各利用者の排泄表の記録から排泄パターンを把握し、食事前や利用者の尿意のある仕草を見て耳元で声をかけ、トイレへ誘導している。オムツを外せることを目指して、日中は布パンツや布パンツにパッドを併用し、夜間は利用者の安眠のため紙パンツを使用して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食材を使った献立、水分補給また散歩、歩行訓練などの軽い運動で自然排便ができるように支援している。現在、下剤を使用している利用者はいない。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午後入浴であるが希望や外出の予定などに合わせて柔軟に対応している。職員とマンツーマンで話しながらゆっくり入浴している。入浴を嫌がられる方には、散歩や時間を空けてから再度声掛けの工夫をしている。	入浴は基本的に午後からの支援にしているが、利用者の希望や外出に合わせて柔軟に対応し、週3～5回入浴が多くなっている。入浴拒否の利用者には時間調整や声かけなどを工夫して、入浴できるよう支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて自由に過ごしていただけるようにしている。夜間、不眠のある方は日中に散歩や軽い運動を取り入れたゲーム、水分を多く摂取するなどして夜間の安眠に繋げている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際には主治医に利用者の体調や精神症状などを詳しく説明し、適切な医療が受けられるように努めている。受診後は随時、口頭及び日誌掲載、申し送りノートなどで全員が共有するとともに、服薬のマニュアルを守って介助するように徹底している。薬の変更時は特に状態の変化に気をつけている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や生活歴等に考慮しながら状態に合わせて、花や野菜の世話、作品づくり、洗濯、調理など得意分野の力を発揮できるように支援している。利用者の好きな食べ物や飲み物などを家族に差し入れしてもらったり、ホームでもできるだけ好みの物を提供している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩、花や野菜の世話、外気浴等で戸外に出ている。利用者の希望に沿った地元行事への参加や、家族の協力を得て彼岸や盆の墓参り、外泊などを行っている。また、市外への遠足も年に2回実施している。誕生の月には遠方であっても本人の希望する場所へ職員とマンツーマンで出かけている。	家族の希望もあり、下肢筋力が落ちないように、一人ひとりの状態に応じて、毎日敷地内を散歩している。外出の行事としては初詣に出かけたり、季節毎の花見や年2回の遠足に市外へ遠出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望で基本的にはお預かりしているが、お小遣い程度自分で持っている方もいる。訪問販売時や外出時には買いたい物を自分で選んでもらい、支払いも自分でできるように配慮している。預かり金の使途・残金については定期的に家族に報告している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は職員が電話をかけて、本人と交代して話をしてもらっている。携帯電話を持参して家族と自由に話している方もいる。また、家族、親せき、知人などに年賀状を出している方もいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように玄関やリビング、居室に四季の花を活けたり、季節の行事やイベント時の写真を飾っている。また、季節の花や野菜を育て、リビングから眺められるようにしている。天窗もあり、適度な光が差し込んでいる。庭にはベンチも置いて、自由に行き来できるようにしている。	玄関入口には外出時に休憩できる椅子を置き、プランターで季節の花を育て、敷地内の畑では季節の野菜を植えて利用者の楽しみにしている。利用者はソファでくつろぎ、居間には行事や外出、イベント時の写真や利用者の描いた絵、一緒に作った装飾品が飾られて和やかな雰囲気を作っている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには気の合う利用者同士でテレビを見ながら談笑できるようにソファを置いている。また、園内のところどころに1人用の椅子を置き、1人でくつろげるスペースもある。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、本人が必要な物、馴染の物、使い慣れた物、家族の写真などを持参してもらい、本人に聞きながら配置している。	居室入口には名前や縫いぐるみを付けて、本人にわかりやすい工夫をしている。居室には広い収納スペースがあって整頓されており、好みの衣類を掛けたパイプハンガー、衣装ケース、筆筒等の家具や、家族写真、人形、縫いぐるみ、観葉植物など馴染みの物を置いて、安心してその人らしく過ごせる居室にしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には可能な限り手すりを取り付け、各居室には洗面台やトイレを設置し、安全に自立した生活が送れるように配慮している。ベッドの高さも本人の高さに調節したり、夜間は本人専用のポータブルトイレを使用するなど、自分の力を発揮しながら自立した生活が送れるように支援している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない